



DI 値・・・良い（多い）、変わらない（普通）、悪い（少ない）の回答のそれぞれが全体に占める構成比を求めます。次に、良い（多い）等の構成比（%）－悪い（少ない）等の構成比（%）を計算した値が DI 値となります。プラス値が大きいほど景況感が良く（好況）、マイナス値が大きいほど景況感が悪い（不況）と言えます。

このレポートは次の基準で景況感を分類しました。（マイナスは△表示）

良い (15P 以上)	やや良い (6 P~14P)	変わらない (△ 5 P~5 P)	やや悪い (△ 6 P~△14P)	悪い (△15P 以下)
↑	↗	→	↘	↓

## 業種別 調査結果と事業者の声

\*DI 値調査結果は裏面に記載

\*【 】は今期の DI 値を記載

### (1) 製造業 景況感 【 0P <変わらない> → 】 (前期比△14P)

景況感が悪化したことに伴い、売上額【△14P】、収益【△2P】は、それぞれ 23P、13P 悪化しました。雇用人員【△47P】は、前期に引き続き厳しい人手不足が続いています。

次期に向けて、多少の改善が予想されますが、雇用人員はさらに悪化する見込みです。

#### ☆事業者の主な声☆

- ・大口取引からの受注減少、他社との価格競争にさらされており、厳しい状況にある。主要取引先からの受注量に大きく左右される状態にあるが、取引先との関係強化により前年並みの売上、利益を維持する見込みである。
- ・受注は好調であるが、残業時間の抑制もある中で、受注は手一杯の状態にある。今春採用した外国人従業員も徐々に業務に慣れてきており、今後貴重な戦力になると期待している。
- ・20代が不足しているため、新卒・中途採用を継続していきたい。
- ・今後、定年 65 歳、再雇用 70 歳までとするなど検討したい。

### (2) 建設業 景況感 【 27P <良い> ↑ 】 (前期比+25P)

売上額【16P】、収益【15P】は、それぞれ 16P、18P の改善が見られましたが、資金繰り【△27P】は、24P の大幅な悪化となりました。

次期に向けて、売上額、資金繰りに、改善が見込まれていますが、雇用人員は、厳しい状況が続く見込みです。

#### ☆事業者の主な声☆

- ・東京オリンピック特需により、大型案件の受注が決まる等、恩恵を受けている反面、材料費の高騰や人手不足等の問題もあり、不安要素を抱えている。
- ・代金回収まで期間を要することから発注先などの選定並びに新規受注先確保の営業活動を行っている。
- ・受注対応に追われる状況であるが、従業員の各種資格取得を進め、自社における技能向上に努めていく。
- ・業況は上向き傾向にあるが、人手不足が経営課題であり、人材確保と人材育成が急務となっている。

**(3) 卸・小売業 景況感 【△9P <やや悪い> 】 (前期比+6P)**

売上額【△6P】、収益【△6P】、雇用人員【△18P】は、それぞれ11P、15P、13Pの改善が見られましたが、資金繰り【△18P】は、10P悪化しました。

次期は、全ての項目で横這いですが、雇用人員は厳しい状況が続く見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・猛暑日が多く客足の悪い日が多い。台風襲来も多く、客足が止まる等、影響も大きい。
- ・常連客の高齢化に伴い客足が年々減少していることや健康面から飲酒を控える客の増加、価格面よりアルコール度数の低いものへ変更する事例等が顕著に見られ、客単価が低下傾向にある。
- ・商品の仕入れ価格の高騰問題もあり、多少ながら不安要素もあるが、インターネット販売等も検討している。

**(4) 不動産業 景況感 【42P <良い> 】 (前期比+27P)**

売上額【34P】、雇用人員【0P】は、それぞれ19P、31Pと大幅に改善しました。

次期は、景況感の悪化とともに、収益が悪化する見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・駅徒歩圏内や駅まで平坦な物件の購入が多く、該当物件の価格は上昇傾向にあったため、当初計画を上回る結果となった。
- ・自社施工リフォーム工事、自社造成の宅地物件で実績を上げている。
- ・夏場は、入居希望者が減少する閑散期となるが、9月以降は物件の動きも活発になる。物件の老朽化に伴う建て替えや修繕をオーナーに対して提案していきたい。

**(5) サービス業 景況感 【2P <変わらない> 】 (前期比△9P)**

ほとんどの項目で横這いの中、資金繰り【△11P】は、14P悪化しました。

次期についても、全ての項目で横這いとなる見込みです。

☆事業者の主な声☆

- ・固定客は安定しているものの新規顧客獲得には苦戦している。従業員の高齢化が進む中、将来を鑑み経営する店舗の中で採算性等総合的に判断し、営業権売却を予定している。
- ・企業の世代交代が上手くいかないところもあり、会社の旅行から部署ごとの旅行に規模が縮小し、最後は旅行自体がなくなる企業もある。例年通り旅行を企画している企業も参加人数が減ってきている。
- ・高齢者による比較的近距離でのタクシーの利用が多く、客単価は下落している。これまで対応していなかった交通系ICカードでの支払いの対応を検討する等、利便性を高める取り組みを模索しており、売上増加、利益伸長に繋げたい。

DI 値 調査結果

前・・・前期 平成30年4～6月の景況感（調査時点 平成30年6月1日）  
 今・・・今期 平成30年7～9月の景況感（調査時点 平成30年9月1日）  
 次・・・次期 平成30年10～12月の景況感（ ” ” ）



業種別調査企業数(回答数)

(単位：社)

	全業種	製造業	建設業	卸・小売業	不動産業	サービス業
前期	165	36	34	46	13	36
今期	143	36	26	33	12	36
次期	143	36	26	33	12	36

(単位：ポイント)

項目	業種	全業種			製造業			建設業			卸・小売業			不動産業			サービス業		
		前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次	前	今	次
景況		景況全般について総合的な概況をお聞きました。																	
良	い(A)	25	25	23	28	19	22	26	35	42	24	24	15	15	42	25	28	19	17
	変わらず	53	57	64	58	62	70	50	57	50	37	43	58	85	58	75	55	64	72
	悪	22	18	13	14	19	8	24	8	8	39	33	27	0	0	0	17	17	11
	DI値(A)-(B)	3	7	10	14	0	14	2	27	34	△15	△9	△12	15	42	25	11	2	6
	今-前、次-今	4	3		△14	14		25	7		6	△3		27	△17		△9	4	
売上額		製造業については、生産品を出荷した額をお聞きました。																	
好	転(A)	25	25	27	31	14	25	26	35	46	22	21	18	15	42	33	28	28	19
	変わらず	50	54	58	47	58	58	48	46	39	39	52	58	85	50	67	55	58	73
	悪	25	21	15	22	28	17	26	19	15	39	27	24	0	8	0	17	14	8
	DI値(A)-(B)	0	4	12	9	△14	8	0	16	31	△17	△6	△6	15	34	33	11	14	11
	今-前、次-今	4	8		△23	22		16	15		11	0		19	△1		3	△3	
収益		売上から経費を引いた収益状況をお聞きました。																	
増	加(A)	22	21	18	28	17	25	21	27	23	20	24	12	15	33	17	22	14	14
	変わらず	54	60	65	55	64	53	55	61	65	39	46	67	85	50	66	59	72	72
	減	24	19	17	17	19	22	24	12	12	41	30	21	0	17	17	19	14	14
	DI値(A)-(B)	△2	2	1	11	△2	3	△3	15	11	△21	△6	△9	15	16	0	3	0	0
	今-前、次-今	4	△1		△13	5		18	△4		15	△3		1	△16		△3	0	
雇用人員		需要に対応できる労働状況をお聞きました。																	
多	い(A)	3	3	3	3	3	3	3	0	0	2	3	3	0	0	0	6	6	6
	適	59	64	60	50	47	41	62	69	65	65	76	70	69	100	100	52	55	52
	少	38	33	37	47	50	56	35	31	35	33	21	27	31	0	0	42	39	42
	DI値(A)-(B)	△35	△30	△34	△44	△47	△53	△32	△31	△35	△31	△18	△24	△31	0	0	△36	△33	△36
	今-前、次-今	5	△4		△3	△6		1	△4		13	△6		31	0		3	△3	
資金繰り		資金繰りが上手く行っているかを判断するためお聞きました。																	
余	裕がある(A)	16	8	8	14	17	17	18	0	8	22	15	9	0	0	0	17	3	3
	支障がない	65	70	73	75	66	66	61	73	73	48	52	64	85	75	83	69	83	83
	苦しい(B)	19	22	19	11	17	17	21	27	19	30	33	27	15	25	17	14	14	14
	DI値(A)-(B)	△3	△14	△11	3	0	0	△3	△27	△11	△8	△18	△18	△15	△25	△17	3	△11	△11
	今-前、次-今	△11	3		△3	0		△24	16		△10	0		△10	8		△14	0	

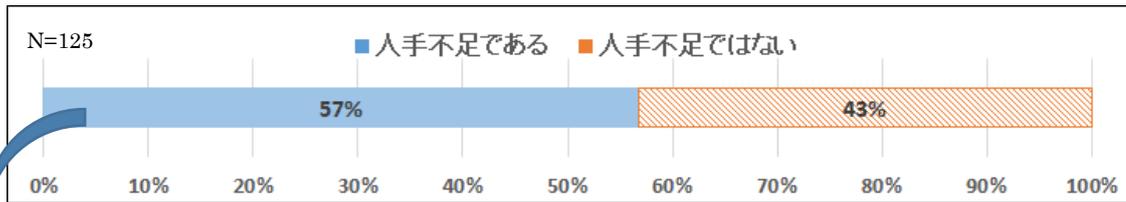
<参考> 昨年同期と現在の景況感比較(回答128社)

	企業数	今期構成比	(参考) 前期構成比
昨年と比べ「景況感」が良い(A)	34社	27%	23%
昨年と比べ「景況感」が変わらない	71社	55%	58%
昨年と比べ「景況感」が悪い(B)	23社	18%	19%
DI値(A)-(B)		9P	4P

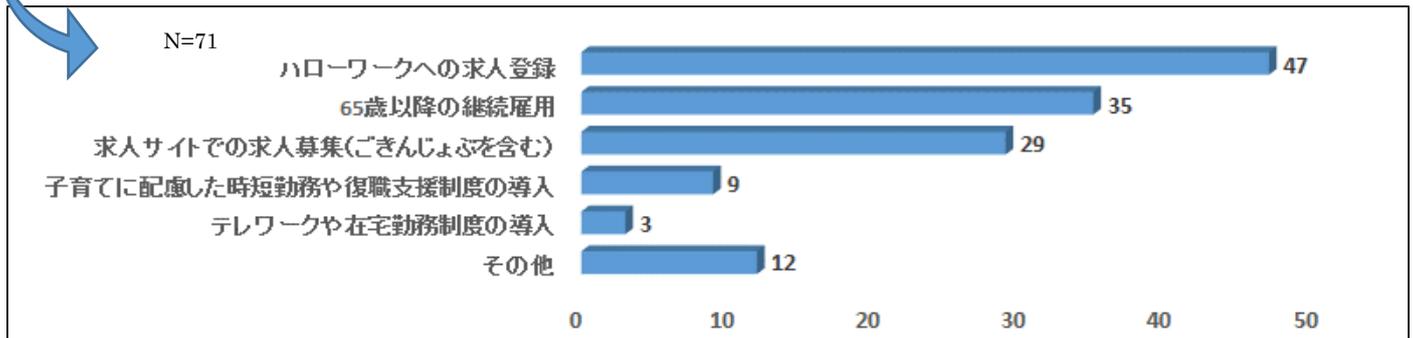


## 1 雇用人員について

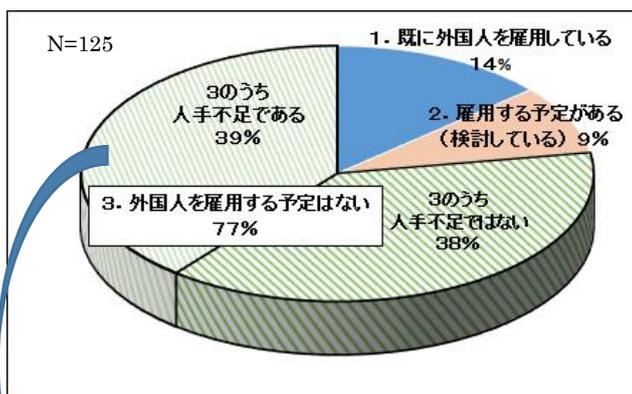
### ①人手不足ですか



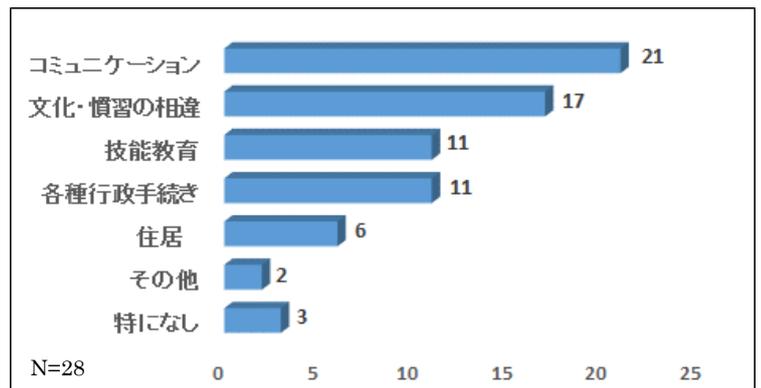
### ②人手不足に対してどのような対策をとっていますか（複数回答）



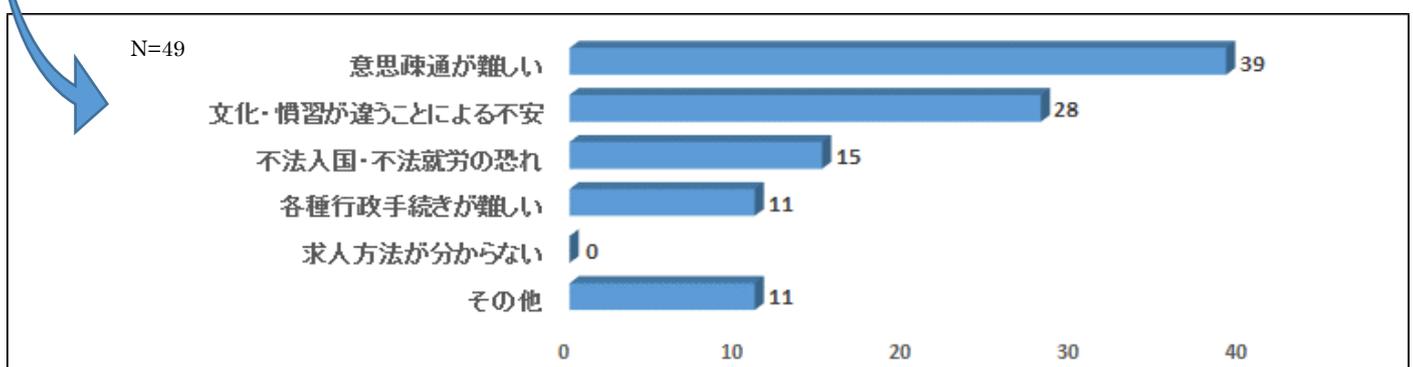
### ③外国人雇用の状況を教えてください



### ④外国人を雇用する場合の課題は何ですか（複数回答）



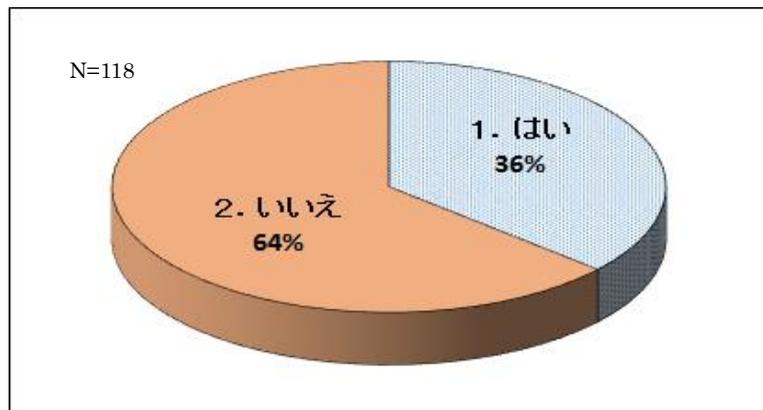
### ⑤雇用する予定がない理由は何ですか（複数回答）



- ・半分以上の企業が人手不足と感じていて、様々な対策をとっている。特に、ハローワークや求人サイトを活用した新たな雇用の確保や、65歳以降も継続雇用することで人材確保する企業が多く見られた。
- ・外国人雇用の状況については、23%の企業が外国人の雇用または雇用の検討をしている。
- ・外国人雇用の課題及び雇用予定がない理由は、コミュニケーションや意思疎通の難しさ、文化・慣習の相違などの対人関係によるものが多かった。

## 2 生産性向上特別措置法に基づく先端設備等の導入について

①この制度を知っていますか



②制度を活用して設備投資の予定はありますか

内容	回答数	割合
1. 固定資産税の軽減を受ける予定	9	8%
2. 国の補助金を受ける予定	4	3%
3. 両方とも受ける予定	2	2%
4. 予定はない	101	87%
計	116	100%

③制度を活用しない理由は何ですか

内容	回答数	割合
1. 現時点で設備投資の必要がない	70	68%
2. 設備投資できる費用がない	12	12%
3. 制度の活用手続きが難しい	7	7%
4. 後継者が決まっていないため、設備投資しづらい	5	5%
5. その他	9	8%
計	103	100%

- ・本制度を知っている企業は36%に留まった。
- ・本制度の活用は一部の企業に限られているが、活用しない理由の大半は、設備投資の必要がないと考えていた。
- ・その他の理由は、設備投資できる費用がない、手続きが難しいが挙げられた。
- ・積極的な設備投資を促進するため、引き続き、本制度を周知していく必要があると考えられる

## 4 自由意見

- ・ごきんじょぶを活用し1人採用した。
- ・恒常的に仕事が無いと、若手の育成が出来ず、結果、横須賀の業界が育たない。
- ・業界に事務所立ち上げる10代、20代がいないため、10年後、20年後を不安に思う。
- ・顧客から多くの案件を頂いているが、人材を確保できず、失注するケースが多い。
- ・IT業界で採用（新卒、中途を含む）に苦勞しており、理系だけでなく文系卒、業界未経験者、外国人に間口を広げて採用活動を行っている。
- ・プロモーション等で横須賀の魅力を発信し、横須賀に住みたい、横須賀で働きたい人が増え、その結果として雇用につながると有り難い。